

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400683		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホームいわき下荒川		
所在地	福島県いわき市平下荒川字諏訪下44-1		
自己評価作成日	平成26年12月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成27年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様お一人おひとりに適した介護計画を作成し、専門的な認知症ケア及びお客様の立場に立った生活援助サービスを提供します。又、ご家族や地域の方々との連携・協力体制の充実を図り、地域に貢献できるような存在となるよう努めます。
認知症ケアの「リーディングカンパニー」として、安定的かつ継続的に良質かつ安心・安全なサービスを提供し「良き企業市民」として広く地域社会に貢献します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

いわき市以外の町村の指定を受け、震災で被災された利用希望者を受け入れ、多くの利用者が笑顔を取り戻し、落ち着いた生活を送り家族からも喜ばれている。
利用者が、自分の過ごしやすい一日の流れで生活出来る様支援する事を心がけ、穏やかで笑顔ある生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意思を尊重しあえ、温かく笑顔あふれるホームを目標に掲げ、ご利用者様やご家族様、地域の皆様に愛されるホームを目指す。 認知症ケアに関して真剣に取り組み、お客様の立場でより良い生活を追及してまいります。	法人全体としての理念とは別に、開所時に職員全員で話し合い決めた事業所独自の理念をもとに、毎日のケアに取り組んでいる。 職員一人ひとりが迷ったり問題にぶつかった時、理念を思い出し、利用者が主体の事業所である事を再確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流活動として、近隣の幼稚園に花の苗をプレゼントしたり、ホーム周辺のゴミ拾いなどを実施。下荒川諏訪下隣組に入り、地域に行事への協力、参加などを行う。	事業所の畑を利用し、利用者と職員で育てた花の苗を幼稚園に届けたり、近くにある神社のお祭り等に行ったりしている。定期的に利用者と一緒にゴミ拾いを行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト養成研修修了者が地域に向けてサポーター養成研修や認知症介護研修への講師派遣、認知症ケア専門士会への協力などを行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・概ね2ヶ月に一回、開催し活動状況を報告し必要な要望、助言をいただき地域に根ざした運営を提供できるように実施している。 ・地域のホームとしての役割を担える、意見交換の場として活用できるようにしている。	区長の参加により、地域で行うシルバー体操等、地域行事の収集の機会となっている。参加や協力を検討し、利用者が地域と交流出来る様に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ積極的に担当窓口に訪問している。市町村主催の研修などに積極的に参加し、ケアの質向上を目指しております。市町村からの調査やその他協力については、協力的に行っております。	事業所だよりを送付したり、利用希望者の情報交換等の連携を取り合っている。 認知症サポーター養成研修の、講師派遣に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアの実践の為、身体拘束関係への研修への参加、また、ホーム内での施錠を行わないケアの実践に取り組んでいます。	年間カリキュラムが作られていて、職員が順番で研修を受け、報告し合い情報を共有している。月一度ホーム内での研修も行い、職員全員が拘束をしないのが当たりまえという意識を持って取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関してのホームでの研修や、会社のコンプライアンス委員会による社内処分の掲示(虐待等)を行い、虐待等が起きないように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設時研修に実施。認知症介護実践者研修への参加や、その他研修への参加、ホーム内での勉強会等を実施する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際、重要事項説明書や契約書の内容を十分に説明を行い理解納得していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来訪時には生活の様子や体調などのお話し、ご意見等をお聞きし繁栄できる様に務めている。運営推進会議での家族との意見交換や意見箱、社内でのご家族様へのアンケートを実施している。	事業所入口に置いてある意見箱からよりも、直接家族から話を聞く事が多い。法人として年一回家族アンケートが実施され、その結果をもとに意見を運営に繁栄させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティング、フロアミーティング等で職員の意見を運営に反映している。	ミーティングの際、職員が意見を出し合い、日々の支援に反映させている。 職員が意見を言いやすい環境作りに努めていて、働きやすい職場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2・4・6・9・11月にスタッフとのヒヤリングを行い、職員一人一人の悩みや、目標等を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成し、各自にあった研修を実施している。外部研修や社内研修、エリアでの研修に参加している。資格取得支援制度や資格手当により職員のやる気、スキルアップを図る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護研修、認知症ケア専門士会、認知症ケア学会等を通じて、他事業所や同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際のアセスメントの実施を行い、入居者様の不安や要望をできる限り答えられるように努めている。入居者様が安心して生活できる環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や要望にできる限り答えられるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様にとって何が一番必要かを様々な専門的な立場に立って考え、納得してもらったうえで実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様と馴染みの関係を築き、共に意思を尊重しあえる関係づくりを構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会や行事へ積極的に参加を進め、ホームで生活していても家族との関係を大事に考えております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のこれまでの考え、地域との継続した関係づくりや人とのつながりを途切れないよう大事に考えます。	家が近い利用者は、家族と共に自由に自宅に戻ったりしている。仕事帰り毎日訪問する家族もあり、遠方の家族でも月に一度は必ず訪問する等、家族とのつながりは続いている。訪問理容を利用出来るが、美容室利用希望者には職員が付き添っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションがうまく取れない利用者同士、職員が間に入り関係づくりに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され後も、ご本人とご家族様との良好な関係を継続できるよう、相談や他サービスへの紹介等を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の個性を大切にし、その方にとって何が大切かを考え、パーソンセンタードケアを実施しています。	日常的に利用者にきちんと向き合い、何気ない会話や言葉から、思いや希望を引き出している。利用者から出た言葉の中で分からない際は、家族から聞き対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を採用し、今までの生活や習慣、何が大切で何を望むかを真剣に考え、今までの生活の継続へ努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様との良好な関係を構築し、その方の些細な変化に気づけるよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族と話し合い、現状に即した介護計画を作成しご満足していただけるように配慮している。また、定期的にモニタリングを実施し担当者会議を開催し、情報の共有を行っている。	担当職員が中心となり家族も交え、三ヶ月に一度計画を直しをしている。起床時間等決められる事無く、利用者の思いを大切に計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って、生活の様子を記録し職員間で共有し、その方に沿ったケアに反映できるよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院など可能な限りスタッフが同行し、ご本人やご家族の不安や負担をできる限り軽減できるように努めております。健康で安心して生活ができるよう、医療機関・他事業所との連携体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に根差したホーム作りを目標とし、様々な形で地域活動に参加できるように働きかけている。ホームに入居しても地域へ貢献できる活動を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より往診(2回/月)していただき、ホームドクターとしての役割を担っていただき安心できる医療が提供されている。	協力医が24時間対応し月2回の往診があり、かかりつけ医への受診も可能である。かかりつけ医の往診を受けている利用者もいる。歯科医等は家族と職員が対応し、受診後は家族と連絡を取り、診察結果を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と医療連携体制を整えており、健康チェック(1回/2週間)を実施している。また、24時間オンコール体制を整え、必要時に連絡し指示等を受ける体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携が保てるように、随時情報交換し、状況にあった支援ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前から重度化の指針、終末期のあり方についてご家族様と話し合いをして、受け入れてもらっている。協力医療機関とも情報を共有し支援体制を整えている。	家族との話し合いの中、重度化や終末期に対する支援体制を整えている。事業所として経験は無いが、職員が研修を受け支援に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設前研修にて全職員が普通救命講習を受講し、緊急時の対応についての知識習得に取り組んでいる。定期的にホーム内での勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練の実施。その都度出た問題点を検証し次に活かしていけるように安全管理に努めている。又、毎月11日を防災の日と定め、安全対策を実施している。災害時の緊急備品を整備している。	年2回避難訓練のうち一度は、消防署の協力を得て行っている。夜間を想定した訓練も行い、安全に避難出来る様に取り組んでいる。自然災害に関しては、備蓄品もあるが法人として応援体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、個々にあった対応を心がけている。プライバシーに配慮し、その方にとっては、同性介助を実施している。	男性職員も日常的に居る事で、トイレや入浴介助の際、同性介助希望者には、個人を尊重し希望に沿った介助を行っている。一人ひとりのプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを尊重し、食べ物や飲み物、本人のほしいものなどがある場合は一緒に買い物に出かけ楽しむ。お酒やタバコ等本人が望むこと等を自己決定できるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の希望があれば、ドライブや買い物等へ出かけ、一日一日がご本人にとって充実した一日になるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望により、化粧品の買い物や美容室でのカット等実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の嗜好を考え、できる限り旬な食材を使い季節感を感じてもらえるような食事の提供、見た目にも工夫し提供している。自分で作る楽しみなどを考え、調理への参加を促し、一緒に楽しみながら作っています。イベントなどを考え外での食事なども行っている。	決められた献立はあるが、利用者がその時に食べたい献立に変わる事もある。健康管理をし、食前酒を楽しんだり、自分の好む箸や茶碗を使用し、職員と共に和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養のバランスや季節に応じた献立を作成し提供している。また、定期的に嗜好調査を実施し、食べたいものを提供することも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回食後の口腔ケアの実施。一人一人に合わせ実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、必要であれば誘導し排せつ介助を行っている。また、排泄のサインを見逃さず、プライバシーに配慮をした、排せつ介助を行っている。	排泄管理表を利用し、声かけ等で日中は利用者全員がトイレを使用している。トイレを利用する事で尿意が戻ったり便秘解消に繋がっている。フロアーにトイレが3ヶ所あり、利用者のタイミングに合わせ、利用出来るようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて排泄の状況の確認、排便の状況が必要に応じて医師・看護師に相談し対応する。また、自然排便を促すよう、腹部マッサージや体操、ウォシュレットによるマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人に希望があれば入浴を実施。時間などを決めず、本人の希望に沿って提供している。また、足にむくみなどがある方に関しては、足浴を実施している。	利用者が入りたい時間にいつでも入浴する事が可能になっている。夜間入浴希望者にも気持ちよく入浴出来る様取り組んでいる。入浴を嫌がる利用者もいるが、利用者のタイミングに合わせて入浴してもらおうとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方一人一人の就寝時間や起床時間に合わせ対応している。また、その方に合った寝具を使用することにより、安全や安眠の確保を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による訪問薬剤管理指導を導入し、薬のセッティングや医師と連携をとって頂き、安全な服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の持っている能力に合わせ、できることをやっていたり、洗濯や調理、掃除等を行っていただき、その方に役割や生きがいを持って生活して頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、回覧板等を持っていくなど、日常的に外出できるよう支援しております。また、ドライブやイベントへの参加等を行っている。	日常的に買い物と一緒に行き、利用者自身の買い物をしたり、散歩がてら近所の店により、ウインドーショッピングを楽しんだりしている。月2回程度、遠出のドライブを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりおこづかいをお預かりをし、日常的に近くのスーパー等にて本人が買い物を楽しめるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了承を得たうえで、ご希望に応じ自由にやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内で季節感を味わっていただけるような飾りを飾ったり、居室や共用スペースの清潔と過ごしやすい温度調整・湿度設定を行っている。	除菌機能付き加湿器が置かれ、風邪予防となっている。椅子にこだわり、長時間座っていても疲れにくい物を使用している。庭に面している大きな窓からは明かりもさし、春には事業所の庭に咲く、桜も楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士が気軽に過ごしていただけるように、テーブルの配置や家具の配置を行い、自由に過ごしていただける空間づくりを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	ご利用者様が心地よく過ごしていただくため、入居前からご自由に家具の配置等を行っている。一人一人が安全に安心して過ごしていただけるように、ご自分に合った寝具や家具をご用意して頂き生活して頂いております。	自宅より持ち込んだ家具の配置を利用者と家族で行い、自宅の航空写真を飾る等馴染みの物を置き、使いやすく落ち着ける部屋となっている。居室入口の柱が丸みをおび、優しい作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印などその方に必要な掲示物を用意し、自立した生活ができるよう支援している。車いすでも移動がスムーズにできるよう全バリアフリーになっている。		